

第 72 回地域農林経済学会大会（龍谷大学大会）のご案内＝第 2 報＝

2022 年 10 月 7 日
地域農林経済学会

第 72 回地域農林経済学会大会を下記の要領で開催いたします。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

1. 期 日 2022 年 10 月 22 日(土)～10 月 23 日 (日)

(理事会は 10/21 (金) に開催されます。)

2. 日程および会場

2-1. 開催地 龍谷大学 瀬田キャンパス

住 所 〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5

連絡先 竹歳一紀 TEL : 077-599-5772 E-mail : taketosi@agr.ryukoku.ac.jp

山口道利 TEL : 077-599-5770 E-mail : yamaguchi@agr.ryukoku.ac.jp

★ オンライン配信について

シンポジウムと国際ミニシンポジウムは、**現地開催と Zoom webinar によるリアルタイムオンライン配信とのハイブリッド開催**とします。個別報告と総会、理事会他は現地での開催となります。(参加方法は、次ページの通りです)

2-2. 全体プログラム

【第 1 日】 10 月 22 日 (土) 個別報告・大会シンポジウム・総会

- | | |
|-----------|---------------------------------------|
| ○個別報告 | [9:30～11:30] (8 号館教室 : 受付開始 9:00) |
| ○会長講演 | [13:00～13:15] (大会シンポジウム内) |
| ○大会シンポジウム | [13:00～17:00] (8 号館 103 教室) |
| ○総会 | [17:00～18:00] (8 号館 103 教室) |

【第 2 日】 10 月 23 日 (日) 個別報告・国際ミニシンポジウム・特別セッション

- | | |
|-------------|---------------------------------------|
| ○個別報告 | [9:30～13:00] (8 号館教室 : 受付開始 9:00) |
| ○国際ミニシンポジウム | [14:00～16:00] (8 号館 103 教室) |

【その他】 10 月 21 日 (金)

理事会 [18:00～20:00] (8 号館 102 教室)

10 月 22 日 (土)

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| 大会シンポジウム打合せ | [12:00～13:00] (8 号館 102 教室) |
| 個別報告優秀賞選考委員会 | [11:45～12:30] (6 号館社会共生実習支援室) |
| 同打ち合わせ会議 | [9:00～ 9:20] (6 号館社会共生実習支援室) |
| 新理事会 | [総会終了後] (8 号館 102 教室) |

注 1) 大会会場の地図・交通案内等は、本文末尾をご参照ください。

注 2) 今年度大会では、社会情勢に鑑み、懇親会は開催しません。

2-3. オンライン配信の申し込み方法

シンポジウム・国際ミニシンポジウムそれぞれについて、**オンライン配信で参加される方は**、以下の url より参加登録をお願いします。

○ シンポジウムへのオンライン参加申し込み

【 締切：10月20日 】

<https://qr.paps.jp/lBA2>



○ 国際ミニシンポジウムへのオンライン参加申し込み

【 締切：10月20日 】

<https://qr.paps.jp/nUjZU>



2-4. 参加費用等

大会参加費：普通会員 3,000 円，非会員 4,000 円，学生会員・学生非会員 1,000 円

★ Zoom webinar によるリアルタイムオンライン限定配信による大会シンポジウム・国際ミニシンポジウムのみへの参加の場合には、大会シンポジウムでは報告者への質問や総合討論での発言機会が制限されるため、参加費を徴収しない予定です。
ただし、シンポジウム・国際ミニシンポジウムへオンライン配信にて参加したうえで、個別報告他の現地開催のプログラムに参加する場合には、参加費を徴収します。

注：国際ミニシンポジウムでは、オンライン参加者も音声での討論への参加が可能です

2-5. 個別報告等の申し込み、各問合せ先に関して

受け付けフォーム（大会・個別報告・個別報告で用いるプレゼンファイル・個別報告論文予稿）が公開されました。各サイトの申込フォームから期日までに申し込みをお願いします。なお、大会参加申し込み自体はありません。

個別報告申し込みおよび要旨提出（締め切り日時：8/22（月）23:59）【締切済】

URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/ebe136a9173043>

個別報告で用いるプレゼンファイル（PDF）の提出（締め切り日時：10/14（金）23:59）

URL : <https://business.form-mailer.jp/fms/9b6f3b99173045>

個別報告論文予稿の提出（締め切り日時：10/14（金）23:59）

URL : <https://business.form-mailer.jp/fms/2e5e7cff173044>

※詳細・各パスワードは、【別紙】を参照ください。

個別報告申し込み、個別報告優秀賞応募に関する問い合わせ先

arfe-plan2021@googlegroups.com

地域農林経済学会企画担当理事

個別報告論文予稿に関する問い合わせ先

editors-arfe@nacos.com

地域農林経済学会常任編集委員会

3. 大会シンポジウム

「農林業問題研究への多様な接近ー地域資源の発掘と持続的利用ー：
都市と農村における混在化した地域資源に注目して」

10月22日（土）[13:00~17:00]

第71回および第72回大会シンポジウムでは、統一テーマとして「農林業問題研究への多様な接近ー地域資源の発掘と持続的利用ー」を設定している。そして、第71回大会では、方法論の多様化による農林業問題研究の議論の深化を図る目的から、緑地計画学や地理学、民俗学等、学会員外からの報告を広く集め、農林業問題研究への多様な接近の可能性を討論した。そのうえで、第72回大会では、都市と農村における混在化した地域資源に注目し、それらの発掘と持続的利用に向けた現状と課題について、議論の深化を目指す。

具体的に、都市の視点からは、都市における農地の存在、農地法と都市計画法の交差する制度的な背景が地域資源利用として如何に評価できるのか、農村の視点からは、都市と農村の交流、農村における非農業部門の住民との交流を背景とした地域資源管理の可能性と課題について、話題提供と問題提起を求める。討論では、前年度の議論で提起された歴史的な視点の重要性を含め、農林業問題研究における地域資源の発掘と持続的利用への接近方法の多様化の可能性を総合的に検討する。

さらに、1992年の生産緑地法改正以降に指定を受けた生産緑地が30年を経過する2022年に一斉に指定を解除されるという「生産緑地の2022年問題」にも注目し、都市の農地利用、土地市場の動向についても、問題意識の共有を図る。

1. 会長講演 浅見淳之（京都大学）
2. 座長解題 藤本高志（大阪経済大学）
3. 話題提供1 都市における農的空間の役割
ー近代都市の理想郷から続く「食住近接」ー
秋田典子（千葉大学）
4. 話題提供2 都市化社会における農業経営の戦略と組織
ー水田経営のステークホルダー対応に着目してー
八木洋憲（東京大学）
5. 話題提供3 「公共水場」をめぐる地域資源の発掘と持続的利用
ー環境社会学の視点からー
野田岳仁（法政大学）
6. コメンテーター 伊藤淳史（京都大学）、牛尾洋也（龍谷大学）

4. 国際ミニシンポジウム（主催：地域農林経済学会・後援：日本有機農業学会）

「持続可能な農業，農村，生態系への転換
ーグローバル・トレンドと地域の現実を学際的アプローチから読み解くー」

座長：マハラジャン・ケシャブ・ラル（広島大学）

司会：増田忠義（近畿大学）・関根佳恵（愛知学院大学）

10月23日（日）[14:00~16:00]

本大会では、以下のテーマで、国際ミニシンポジウム（主催：地域農林経済学会 後援：日本有機農業学会）を開催いたします。

**2022 International Mini-Symposium of the Association for Regional
Agricultural and Forestry Economics sponsored by the Japanese Society of
Organic Agriculture Science**

Transformation towards Sustainable Agriculture, Rural Communities, and Ecosystems: Reviewing Global Trends and Local Realities based on Inter-disciplinary Approaches

In the recent decades, sustainability of agriculture, rural communities, and ecosystems face significant challenges under climate change, globalization, urbanization, and environmental degradation. To respond to this crisis of agri-food system as well as the whole society, the governments, business circle, and grassroots farmers' and civil society movements promote alternative solutions in different ways such as agroecology, farm diversification, digitalization, climate resilient agriculture. The Authorities of Japan, the US, and EU declared their new strategies to transform the current agri-food system to be ecologically, socially, and economically sustainable between 2019-2021. The UN Food Systems Summit of 2021 is a part of these initiatives. However, the global farmers' and civil society groups firmly contest the way in which these initiatives promote and claim that ecological farming and localized food systems and associated traditional knowledge of farmers, including small-scale family farmers and indigenous peoples, deserve to be placed in the center of the debates.

To learn from the global trends of latest research, this symposium invites three experts of agroecology and Participatory Guarantee Systems, digital agriculture and farm diversification, and resilience of small-scale farmers to present the concepts, related studies, policies, debates, and controversies. Dwelling on their rich research experiences in different disciplines: sociology of agriculture and food, resource and environmental economics, development economics, we invite participants to get involved in inter-disciplinary debates. The symposium is the second round of two consecutive symposia to be held from 2021 to 2022 while the former focusses on the global trends, the latter focusses on local realities.

Symposium Organizers: Executive Board Members for Internationalization of ARA FE

Prof. MAHARJAN Keshav Lall (Hiroshima University)

Asso. Prof. MASUDA Tadayoshi (Kindai University)

Prof. SEKINE Kae (Aichi Gakuin University)

Welcome Address: President of ARAFE, ASAMI Atsuyuki (Kyoto University)

President of JSOAS, TANIGUCHI Yoshimitsu (Akita Prefectural University)

Presentation 1: Innovations for Sustainable Food Systems: Focusing on Agroecology and Participatory Guarantee Systems

LOCONTO Allison Marie (INRAE)

Presentation 2: Rural Perspectives on Digital Agriculture: The Case of On-Farm Diversification

Matteo Metta (University of Pisa/University of Gent)

Presentation 3: Building Resilience for Food and Nutrition Security in Africa: Focusing on Small-Scale Farmers

UMETSU Chieko, Prof. Emeritus (Kyoto University) (Presenter)

MIURA Ken, Assist. Prof. (Kyoto University)

Commentators: MURAMOTO Joji (University of California)

NANSEKI Teruaki (Kyushu University)

Steven McGreevy (University of Twente)

Closing Remarks: Chair: Prof. MAHARJAN Keshav Lall (Hiroshima University)

なお、質疑応答では日本語でも行うことができます。

5. 個別報告

10月22日(土) [9:30~11:30] (個別報告優秀賞対象報告を含む)

- 第1会場：8号館 B101 教室
- 第2会場：8号館 B102 教室
- 第3会場：8号館 B103 教室
- 第4会場：8号館 102 教室

10月23日(日) [9:30~13:00]

- 第1会場：8号館 B101 教室
- 第2会場：8号館 B102 教室
- 第3会場：8号館 B103 教室

- 1) 報告は1件につき、30分(報告20分、質疑応答10分)です。
- 2) 個別報告論文投稿等については、【別紙】の1・2を参照してください。

6. その他連絡事項

(1) 宿泊について

大会事務局、学会事務局では斡旋いたしません。各自でご予約ください。

(2) 昼食について

10月22日(土)の昼食時間帯は、キャンパス内の生協購買部(智光館)、青志館食堂が営業しています(弁当の数には限りがあります)。

10月23日(日)は、生協購買部、コンビニ、食堂などすべて閉店しており、キャンパス内で食事を調達することができません。また、徒歩10分圏内にコンビニやレストランなどありません。23日に参加される方は、各自で昼食をご持参ください。22日も昼食持参を推奨いたします。両日とも、一般参加者向けに弁当販売はいたしませんのでご注意ください。(湯茶は休憩室8-101にて提供します)

(3) 龍谷大学瀬田キャンパスへの交通手段について

会場までのアクセスについては龍谷大学 HP のアクセス情報(瀬田キャンパス)をご参照ください。

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/traffic/t_seta.html>

○JR 琵琶湖線

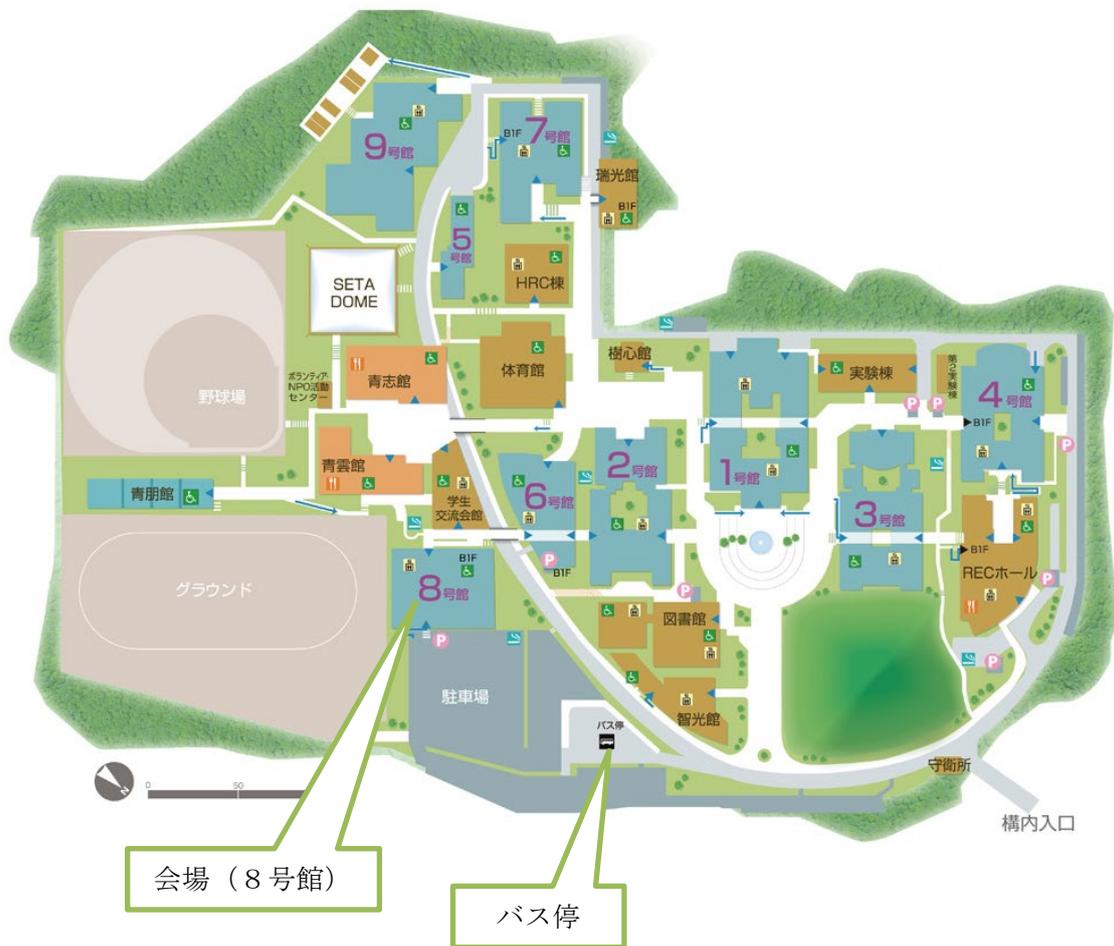
瀬田駅下車 駅前バスターミナル3番乗り場から、帝産バス
龍谷大学行(11系統)、龍谷大学経由大津市公設市場行(111系統)、龍谷大学経由大学病院行(311系統)

時刻表:<https://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/traffic/bus/data/teisan_20220917.pdf>

- (注意)
- ・23日(日)は減便されるので、時刻表をご確認ください。
 - ・帝産バスは、交通系ICカードが使用できません。

- 自家用車でお越しの場合は、正門横の守衛所で、学会参加の旨お伝えのうえ、入構許可証を受け取り、駐車場(無料)に駐車してください。

★ キャンパスマップ



【別紙】

各申し込みの先の URL・提出期限および連絡先一覧

~~個別報告申し込みおよび要旨提出 (締め切り日時：8/22 (月) 23:59) 【締切済】~~

~~URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/ebe136a9173043> パスワード【20220822】~~

~~個別報告で用いるプレゼンファイル (PDF) の提出 (締め切り日時：10/14 (金) 23:59)~~

~~URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/9b6f3b99173045> パスワード【20221014】~~

~~個別報告論文予稿の提出 (締め切り日時：10/14 (金) 23:59)~~

~~URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/2e5e7cff173044> パスワード【20221014】~~

~~個別報告申し込み, プレゼンファイル提出, 個別報告優秀賞応募に関する問い合わせ先~~

~~arfe-plan2021@googlegroups.com~~

~~地域農林経済学会企画担当理事~~

~~個別報告論文予稿に関する問い合わせ先~~

~~editors-arfe@nacos.com~~

~~地域農林経済学会常任編集委員会~~

1. 個別報告の要旨原稿の様式・申し込み方法等に関して

~~-(1) 個別報告の要旨原稿の様式 【締切済】~~

~~1. 要旨原稿のフォーマットは, 学会ウェブサイト (<https://a-rafe.org/>) の「学会誌」にある個別報告要旨様式 (作成要領・見本) を参照してください。~~

~~2. 要旨原稿は, Wordで作成したファイルを, 必ずPDFファイルに変換してください (A4版: 1枚)。ファイル名は, 下記の事例を参照してください。~~

~~例) (単独の場合) ○○大学・農経花子.pdf (複数の場合) ○○大学・農経花子他.pdf~~

~~また, 所属機関の書き方は, 下記の事例を参照してください。~~

~~例) (社会人の場合) ○○大学, ○○研究所, (大学院生の場合) ○○大学大学院~~

~~(学部学生の場合) ○○大学△△学部, (日振特別研究員の場合) 学振特別研究員・○○大学~~

~~★ 個別報告要旨は学会ウェブサイトにアップロードします。~~

~~-(2) 個別報告の申し込み方法 【締切済】~~

~~1. 申し込みおよび要旨原稿 (PDFファイル) の提出は, 上記URLから行ってください。~~

~~2. フォームの「IX個別報告要旨のファイル (PDFに限る) を添付してください。」の欄では, 参照ボタンをクリックし, 要旨原稿ファイルを選択してください。~~

~~3. 「送信する」のボタンを押した後, 返信メールが, 連絡先メールアドレスに送られる仕組みになっています。数時間たっても連絡先メールアドレスに, 受付完了のメールが届かない場合には, 再度申請をお願いいたします。~~

~~4. 「地域農林経済学会個別報告申請フォーム」入力に関しての質問は, 電話では一切受け付けません。また, 入力ミスへの修正対応はできません。~~

~~5. 筆頭報告者には, 会員の資格が必要です。非会員の方には, 入会手続きをお願いいたします。個別報告の申込期限 (8月22日 (月)) までに, 入会金と年会費の納入が必要です。詳細は, 学会ウェブサイト参照ください。~~

(3) 個別報告で使用するプレゼンテーションファイル等に関して

1. 個別報告でPDF ファイルをプレゼンテーションに使用する場合

☆プレゼンファイルは, PDF のみです。PowerPoint などで資料を作成される場合は, 必ずPDF ファイルに変換をしてください。

① 個別報告会場に備え付けのプロジェクターと PC (OS は Windows) で報告していただきます。持ち込

みPC, タブレット, OHP 等は利用できません。

- ② プレゼンファイルは, 10月14日(金)23時59分までに, 上記URLから提出してください。締切り以降は受け付けません。また, 当日のファイルの差し替え等も受け付けるとはできません。会場でのPC使用の便宜のため, PDFファイルには, 下記のように名前を付けてください。

例) 報告者が, 個別報告優秀賞に応募で, 第1会場の第1報告の場合
(単独の場合) 特0101・農経花子.pdf (複数の場合) 特0101・農経花子他.pdf
報告者が, 一般報告に応募で, 第3会場の第6報告の場合
(単独の場合) 0306・農経花子.pdf (複数の場合) 0306・農経花子他.pdf

- ③ ファイルの容量の上限は, 3MBです。3MBを超えるファイルは, 受け付けることができませんので, 図や写真を圧縮するなど工夫してください。
2. 個別報告で紙媒体を用いる場合
聴講者数分の部数を用意して, 当日報告会場に持参してください(事務局では印刷は行いません)。

2. 個別報告論文としての投稿に関して

1. 大会終了後に個別報告の内容を「個別報告論文」として『農林業問題研究』に投稿する予定がある場合には, 「個別報告論文投稿要領」(学会ウェブサイトに掲載)の2に従って, 「個別報告論文予稿」を作成してください。なお, 「個別報告論文予稿」を作成する際には, 学会ウェブサイトに掲載されている「個別報告論文テンプレート」を必ず用いるとともに, 8ページ以内に収まるようにしてください。
 2. 作成した「個別報告論文予稿」は, 10月14日(金)23時59分までに上記URLから提出してください(PDFファイルに変換のこと)。
なお, 学会ウェブサイトの「研究大会」-「個別報告-申し込み要項」からも上記URLにリンクしていますので, そちらから利用して頂くことも出来ます。
- ※「個別報告論文予稿」を上記提出先に期限までに提出しない場合, 個別報告論文の投稿が認められませんので, 注意してください。

- 3 個別報告論文予稿のPDFファイルには, 下記のように名前を付けてください。

例) 報告者が, 個別報告優秀賞に応募で, 第1会場の第1報告の場合
(単独の場合) 特0101・農経花子.pdf (複数の場合) 特0101・農経花子他.pdf
報告者が, 一般報告で, 第3会場の第6報告の場合
(単独の場合) 0306・農経花子.pdf (複数の場合) 0306・農経花子他.pdf

4. ファイルの容量の上限は, 3MBです。3MBを超えるファイルは, 受け付けることができませんので, 図や写真を圧縮するなど工夫してください。
5. 大会終了後に提出して頂くことになる個別報告論文の投稿方法・締め切り等については, 大会前に常任編集委員会から投稿案内がメールにて送付される予定です(学会ウェブサイトでも告知します)。個別報告論文の書き方・提出方法等については, 学会ウェブサイトに掲載される「個別報告論文テンプレートファイル」および「個別報告論文投稿要領」に従ってください。
6. 連名報告での報告者の順番と, 個別報告論文での執筆者の順番は, 同じでなければなりませんので, ご注意ください。

3. 個別報告優秀賞の応募方法について

個別報告優秀賞に応募される方は, 「個別報告論文予稿」の提出が必須です。「個別報告論文予稿」の提出がない場合には, 審査の対象になりません。

なお, 個別報告優秀賞への応募できるのは, 2022年10月22日時点での筆頭報告者の年齢が37歳未満の場合です。また, すでに研究論文等として投稿中の研究は応募できません。ご注意ください。